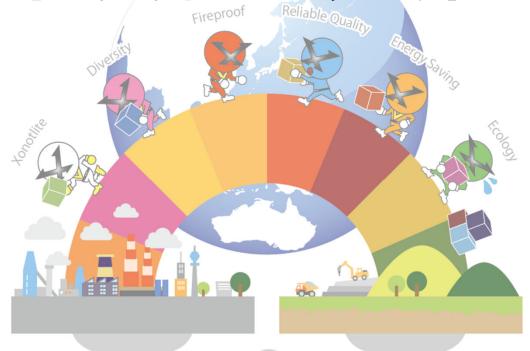


個人投資家向け会社説明会



2023年7月12日

防災・省エネを通じて、産業・社会や地球環境に貢献する



目次



- 1. 当 社 グループの 概 要 P.4
- 2. 当社グループの事業 P.9
- 3. 決 算 報 告 P.18
- 4. 当 社 グル プの 強 み P.24
- 5. 今後のビジネス展開 P.29
- 6. 中期経営計画の概要 P.36
- 7. トピックス 2022年4月~2023年6月 P.40
- 8. (参考) 決算実績等 P.48

~会社紹介動画もぜひご覧ください~ https://youtu.be/nLBraAnkct4



「XONOT5」について

日本インシュレーションは、独自のXonotlite製造技術を活用して、都市防災や省エネルギーを通じ産業・社会に貢献しています。

私たちは、そのことをゾノトライトの戦士「XONOT5」で表現しています。



- ○→Xonotlite (ゾノトライト)
- ●→Fireproof (耐火)
- ●→Ecology(環境・エコ)
- ●→Reliable Quality(安全・品質)
- ●→Energy Saving(省エネ)
- ●→Diversity (ダイバーシティ)



決算のポイント



- ・2023年3月期は、建築関連、プラント関連とも、販売部門で価格転嫁が進展したものの、プラント関連でここ数年続いていた大型建設工事案件の受注が一服したこと等 大型工事の受注減少等により前年度同期比で減収となった。
- ・セグメント別では、建築関連は、工事部門で耐火被覆工事の需要が比較的堅調に推移るも、物流関係の大型工事受注減少により前年同期比減。販売部門で耐火被覆材、 CFRP用型材、内装仕上げ材等の需要回復、価格転嫁の浸透より前年同期比で増加。 プラント関連は、工事部門で、大型建設工事案件の受注が一服したこと等大型工事の 減少等により前年同期比減少。販売部門で価格転嫁の浸透等より前年同期比増加。
- ・2024年3月期の業績予想は、販売部門で、建築関連、プラント関連ともに価格転嫁が 進展することから売上の増加を見込む。工事部門では、プラント関連で受注増加が見 込まれるが、建築事業関連では物流施設などの大型工事案件が減少が見込まれる。原 材料・燃料価格は高い水準で推移が予想されるため、更なる原価の低減、経費の削減 等を推進。こうした状況を踏まえ、通期の業績は、売上高13,335百万円、営業利益 1,433百万円、経常利益1,416百万円、親会社株主に帰属する当期純利益878百万円 と増収増益を予想。



当社グループの概要

会社概要



グループ会	社	海外連結子会社:1社(ジェイアイシーベトナム有限会社)
事 業 内	容	ゾノトライト系けい酸カルシウムを基材とした 各種の防耐火建材、保温材等の製造、販売及び設計・施工
従 業 員	数	●連結:354人 ●単体:298人 (ともに、2023年3月末現在)
連結業	績	●売 上 高:12,320百万円 ●経常利益: 1,142百万円 (ともに、2023年3月期)
資 本	金	1,200百万円 (2023年3月末現在)
本	社	大阪府大阪市中央区南船場一丁目18番17号
代 表	者	代表取締役社長 吉井 智彦
設	立	1949(昭和24)年1月14日
創	業	1914(大正3)年4月8日
社	名	日本インシュレーション株式会社 JAPAN INSULATION CO., LTD.



当社グループの歩み



高耐熱性の ゾノトライト系 けい酸カルシウム材の 工業化に 世界で初めて成功



1960年

岐阜工場

(岐阜県)

1966年

2014年 海外子会社

ベトナムに100%子会社設立

1989年

北勢工場

(三重県)

2014年(創業100周年) 2016年 ベトナム工場 (ベトナム)

1989年 社名変更

「日本インシュレーション株式会社」に改称

1949年 設立

1930年

株式会社に改組

大阪新工場

(大阪市西成区)

戦後 (1945年~)

戦前

1927年

大阪工場

(大阪市西区に移転)

1914年 創業

個人事業「大阪パッキング製造所 |設立 ⇒1936年に合名会社に改組

< JICの世界初・日本初 >

1966年 ゾノトライト製法開発 世界初

1968年 ゾノトライト新製法が、けい酸カルシウム耐火被覆材の

耐火構造認定の基礎となる

1976年 ゾノトライト新製法が、けい酸カルシウム保温材の

JIS規格の基礎となる

1994年 ISO9000シリーズ認証取得 国内建材メーカーで初

1996年 新JIS認証取得 建材試験センターの第1号認証取得

2008年 DBJ環境格付 中堅企業で国内初

2016年 もみ殻由来保温材「ダイパライト-E」実用化 世界初



ちょっとマニアックな「ゾノトライト」の話

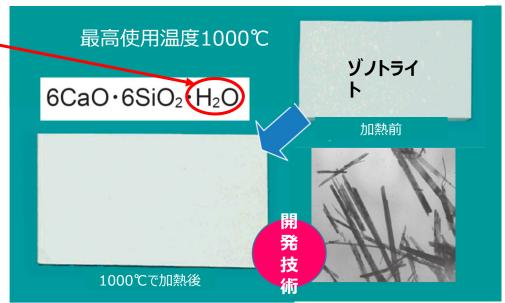


【高耐熱性のゾノトライト系けい酸カルシウム材】

·1000度の高熱に晒されても結晶構造が維持される素材 ·高熱に晒されても形が崩れない









ちょっとマニアックな「ゾノトライト」の話

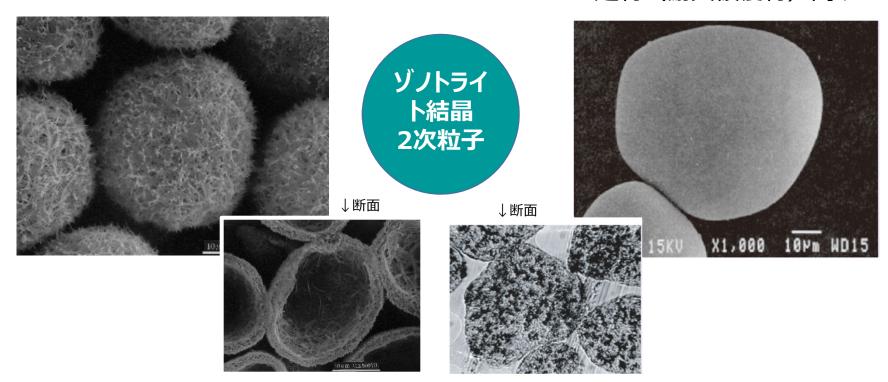


【高耐熱性のゾノトライト系けい酸カルシウム材】

・1000度の高熱に晒されても結晶構造が維持される素材・高熱に晒されても形が崩れない

保温材向け

建材(耐火被覆材)向け



中空で内部の空気が断熱性を高める

充実で強度が高い





日本インシュレーション

熱、電気、音、振動などの 絶縁材・絶縁行為の意味









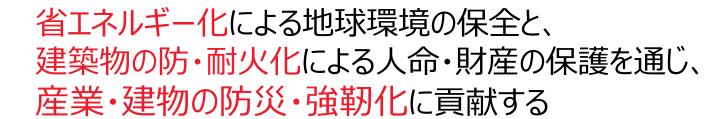






社名に込めた意思

主に耐火・保温・断熱等、熱を対象とした絶縁材の製造と絶縁工事を通じ、





当社グループの事業

建築関連事業

49億円/40.1%

耐火被覆材、内装仕上材等の販売・施工

2023年3月期 連結売上高 123億円

プラント関連事業

74億円/59.9%

●保温断熱材等の販売・ 施工

主な用途市場

各種の熱機器を使用する プラント分野

- ○火力及び原子力発電プラント
- ○石油精製・石油化学プラント
- ○化学プラント
- ○製鉄プラント
- ○その他プラント





主な用途市場

建築基準法に基づく防・耐火処置が 必要とされる建築分野

- ○オフィスビル
- ○商業施設(ショッピングモールなど)
- ○物流施設
- ○生産施設(工場など)
- ○交通施設(空港や駅など)







建築関連事業の概要



■建物の防災

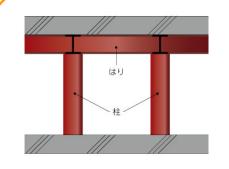
*耐火被覆材とは・・・

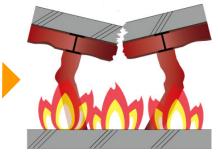
熱に弱い鉄骨のはり・柱、免震装置など、建物の構造部材を被覆

⇒ 火災時に、火炎や熱から守り、建物の倒壊を抑制する役割を担う

建築基準法に基づく耐火構造認定を取得した製品





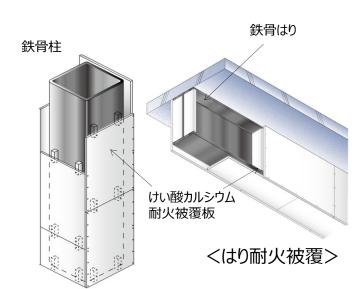


- 鉄は400℃を超えると大きく強度が低下します。1000℃を超える火災に遭うと、鉄骨造の建物は 倒壊してしまいます。
- 熱に弱い鉄骨の柱やはりを被覆して建物の倒壊 を抑制する役割を担うのが耐火被覆材です。



建築関連事業 ~主力製品の紹介~





<柱型耐火被覆>

はりと柱の耐火被覆





柱の耐火被覆(オフィス)



柱・はりの耐火被覆(物流施設)

けい酸カルシウム耐火被覆材の特徴

(他の耐火被覆材との比較)

- ●乾式工法で工期短縮に貢献
- ●工場成型品で品質が安定
- ●仕上げ兼用で柱を細くできる (=有効床面積を大きく取れる)
- ●ボードなので見栄えが良い



はりの耐火被覆(商業施設)



EVシャフト・ブレースの耐火被覆(複合ビル)



プラント関連事業の概要



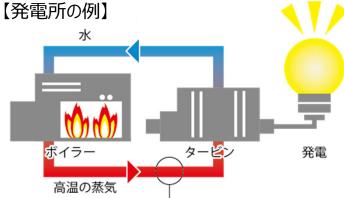
■工場・設備の省エネルギー







保温しないと、 どんどん 熱が逃げていくよ!!



【保温材の施工例】

けい酸カルシウム保温材 配管 外装鋼板

*保温材とは・・・

工場の配管や機器を被覆して内部の熱を 逃さないようにする製品

⇒ エネルギーのムダを防ぐ役割を担う





熱少

プラント関連事業 ~主力製品の紹介~



発電所や製鉄所、化学工場などの高温の 蒸気や流動体が通る配管や機器の 保温にはどんなものがいいだろう?



The state of the s

JIC の保温・断熱材は 1000℃の熱に も耐えられる「ゾノトライト」でできているよ。 だから,他の断熱材では適用できないところでも 使われているんだ!

74N74F

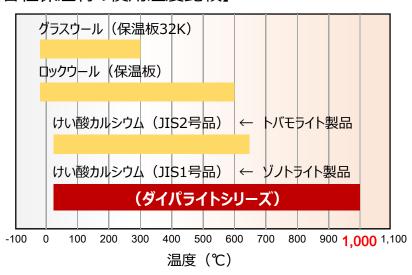
当社のけいカル保温材の特徴

- 軽量で高い断熱性
- ▶ 1,000℃と極めて高い耐熱性

JICは、保温材の提供を通じて、 工場の省エネルギーに貢献しているよ



【各種保温材の使用温度比較】





保温材取付け(施工中)



施工完了



営業体制



● 高層ビルなどの建築物が集中する都市部からプラント施設が集中している

商品PRルーム

地域まで、営業拠点を全国展開

建築関連事業

- ・営業開発グループ
- 関東支社営業グループ販売グループ
- · 東北営業所
- 関西支社営業グループ販売グループ
- •中部営業所
- •九州営業所

プラント関連事業

- ・プラント海外営業部
- ・プラント営業開発部
- ・プラント販売部東京販売グループ大阪販売グループ九州販売グループ
- ・東日本支社 鹿島営業所 京浜営業所 新潟営業所 苦小牧出張所 福島出張所 女川作業所
- ・京葉支社 千葉営業所
- ・西日本支社 三重営業所 倉敷営業所 大阪営業所





国内最大の供給・アジア販路拡大のための工場体制

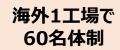
国内2工場で150名体制













岐阜工場

主に、プラント市場向け製品(保温材)を生産

北勢工場

▶ 主に、建築市場向け製品(耐火被覆材、不燃意匠内装材等)を生産

ベトナム工場

主に、東南アジア・東アジアのプラント市場向け製品(保温材)を生産

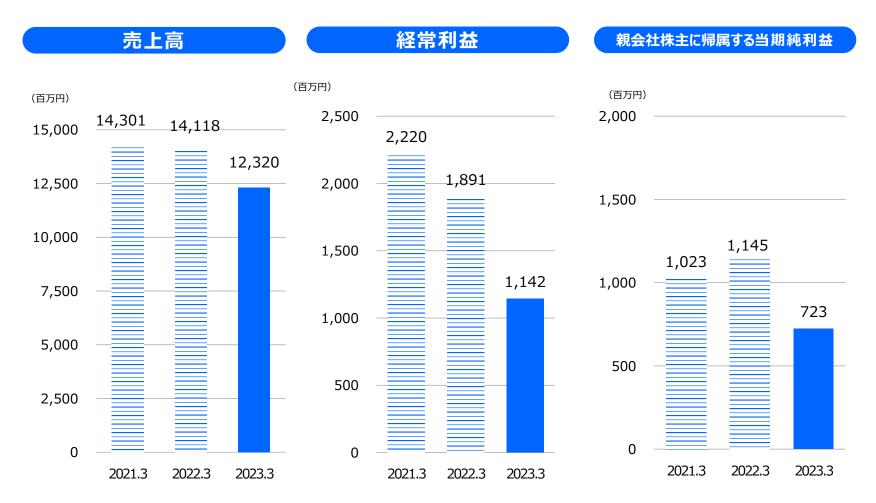


決算報告

連結売上高・経常利益・当期純利益



- 2023年3月期の売上高は12,320百万円となりました。
- 損益として、経常利益が1,142百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は723百万円となりました。

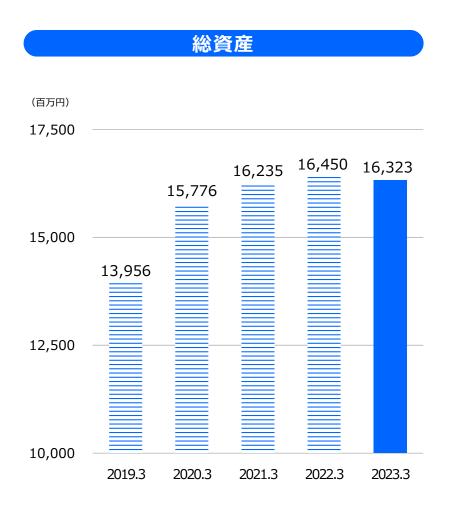


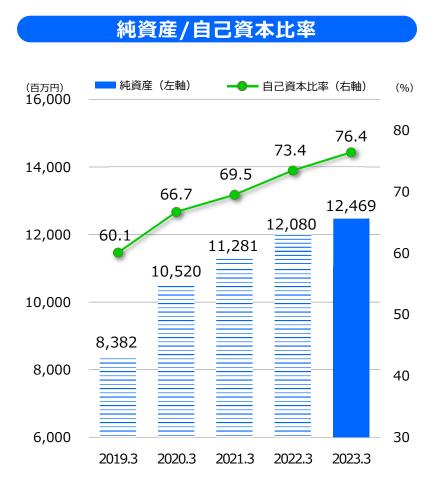


総資産・純資産・自己資本比率



● 自己資本比率は着実に増加しています。







セグメント別の状況 建築関連事業



(単位:百万円、%)

			2022/3期 累計	2023/3期 累計	増減	増減率
売	上	高	5,002	4,937	△64	△1.3
セグ	メント和	引益	1,218	973	△245	△20.1

- ■工事部門は、物流関係の大型工事案件の受注が 振るわず、工事売上高は前年同期比で微減。
- 販売部門は、耐火被覆材、内装仕上げ材等が 徐々に回復し、販売売上高は前年同期比で増加。





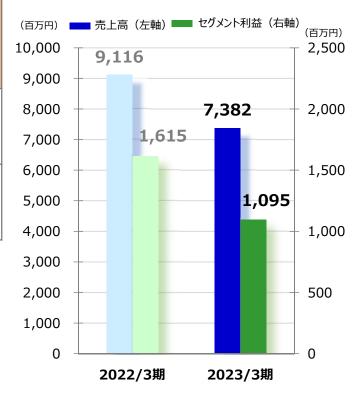
セグメント別の状況 プラント関連事業



(単位:百万円、%)

	2022/3期 累計	2023/3期 累計	増減	増減率
売 上 高	9,116	7,382	△1,734	△19.0
セグメント利 益	1,615	1,095	△519	△32.2

- ●工事部門は、大型建設工事等が一服したことから、工事売上高は前年同期比で減少。
- ●販売部門は、国内一般顧客向け製品及び海外子会社製品等の需要が徐々に回復、価格転嫁の寄与もあり、販売売上高は前年同期比で増加。





2024年3月期業績予想



●期末業績予想は、販売部門で価格転嫁が進展の見込み、工事部門では プラント関連で受注増加が見込まれる。一方、原材料・燃料価格は高 い水準で推移が予想されるが、対前期比で増収増益の見込み。

(単位:百万円、%)

	2023年3月期	2	前年同期比		
	実績	上期予想	下期予想	通期予想	的十四规址
売 上 高	12,320	6,196	7,139	13,335	108.2
営業利益	1,145	507	926	1,433	125.1
経常利益	1,142	494	922	1,416	123.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	723	285	593	878	121.3



当社グループの強み

1 独自の製造技術力と、他分野展開に結びつく研究開発

2 自社工場製造と材工一貫による高い収益性の実現

3 長年にわたり育んできた安定した顧客基盤



強みー製造技術力と研究開発力



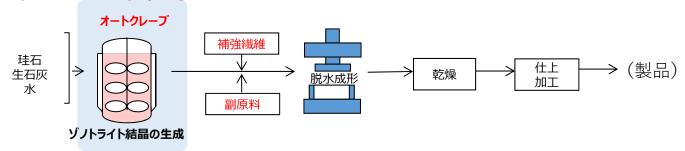


膨大なノウハウの蓄積が不可欠な製造技術を確立

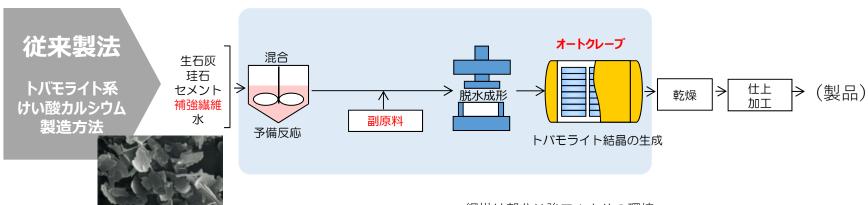
当社製法

ゾノトライト系 けい酸カルシウム 製造方法

最初に素材を作りこむ



この製造技術が耐火被覆材・保温材の無石綿化の基礎となり、海外技術輸出へとつながった





強みー 高い収益性の実現



実施製造・出荷から施工に至る プロセスを自社一貫管理



自社工場で、 工事現場の施工者が 作業しやすいよう、 荷積みや梱包する。

⇒ 施工現場での 作業生産性がアップ・! 自祉工場





自社の工場から材料を 仕入れるので、

マージンがかからない。

⇒ 産地直送!

工場でプレカット出荷し、 現場廃材を極小化。

⇒ 環境にやさしく、 コスト削減!







営業から工場へ 細やかな指示



自社製品なので、 工場も納期調整も容易。 必要な材料の増減も迅速対応 ⇒ 材料の無駄がない!









長年にわたり育んできた安定した顧客基盤



施主・設計事務所 ゼネコン

顧客基盤

電力・石油・石化・鉄鋼会社 エンジニアリングメーカー



今後のビジネス展開

今後のビジネス展開ー建築関連事業



副原料として機能材を添加し、新しい機能商品を開発し、 お客様に提供しています



建築で

関連資材

ライニング材 調湿資材 住宅用断熱材

関連工事

石綿除去丁事

建物の 防火材·耐火材 & 耐火被覆工事

幅広い生活分野で

用途開発による新市場創出

機能材

CFRP型材 学校教材 サイン材 粉体

■ 燃えない素材特性に機能添加

- ✓ けい酸カルシウム材に樹脂を混合して、加工性 を増強した材料を、いろいろな用途に展開
- ✓ 精度よく加工でき、高耐熱性の材料
- ・不燃デザインパネル・・炭素繊維強化プラスチック用型材
- ・学校教材、版画材料・サイン材料

不燃デザインパネル施工例 (展示施設)





炭素繊維強化プラスチック用型材 (レーシングカー部品の例)



今後のビジネス展開ー建築関連事業



JICは、建物の耐火性能の向上要求に適用できる製品を 開発し、提供しています



用途開発による新市場創出





(Oo

免震装置用耐火被覆材

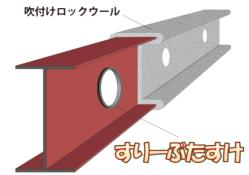
■通信ケーブルが防火壁を貫通する部分の耐火

ケーブル延焼防止材



通信ケーブル

■はりの設備配管が貫通する部分の耐火



はり貫通部耐火被覆材

■煙突内側の断熱(煙突ライニング)

煙突ライニング材





耐火パネル

延焼防止材

今後のビジネス展開ープラント関連事業



プラントで

関連資材

プラントの耐火被覆計装ダクトの耐火被覆等

関連工事

足場工事 防食工事 熱診断 石綿除去工事 等 発電所や石油 プラントにおける高温 配管・機器の

保温材

&

保温工事

幅広い産業分野で

● 用途開発による新市場創出

耐熱資材

高温調理器 蓄熱暖房機 加熱炉のバックアップ断熱材 防火戸の芯材 等

記材等 保温材 保温材 施工

【● 保温材事業の関連事業開発(既存市場の拡大・深耕)

相対的にシェアの小さい「工事施工」分野の規模拡大を目指して…

■ 常駐現場の拡大

→ 安定的な売上が確保できる常駐現場の拡大を推進



今後のビジネス展開ープラント関連事業

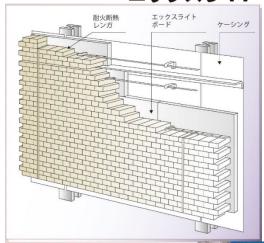


●保温材事業の関連事業開発(既存市場の拡大・深耕)

■ 保温工事に関連する新たな工事種類の開拓

各種炉のバックアップ断熱

エックスライト



> 熱診断



メカニズムグネラップ犠牲防食

原子力発電所向けの金属保温材による工事



高い耐熱性と断熱性を 同時に要求される用途 が得意です。熱のこと ならお任せください

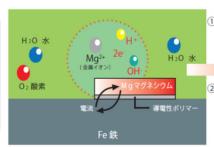
▶ 犠牲防食材を使った工事

(商品名:ぼうしょくたすけ)

プラントで使う保温材以外の 資材を販売したり、保温工事 と併せて関連工事も 行っています

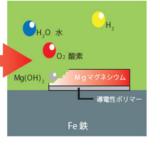


加熱炉



①イオン化傾向の関で金属 Mg が Mg イオンと成って溶け出す

②Mg イオンが鉄に電 気を運んで鉄が溶け る(腐食する)のを 防ぐ



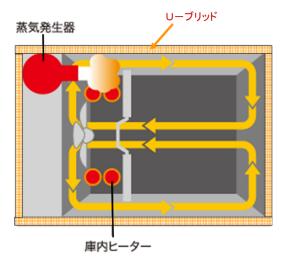


今後のビジネス展開ープラント関連事業



●用途開発による新市場創出

- 顧客ニーズを現場から収集し、ニーズに適した商品開発を推進
- → 高温になる用途で他の断熱材が適用できない用途での商品開発を積極化



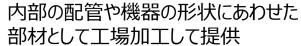
オーブンレンジ(イメージ)



加工した保温材(イメージ)



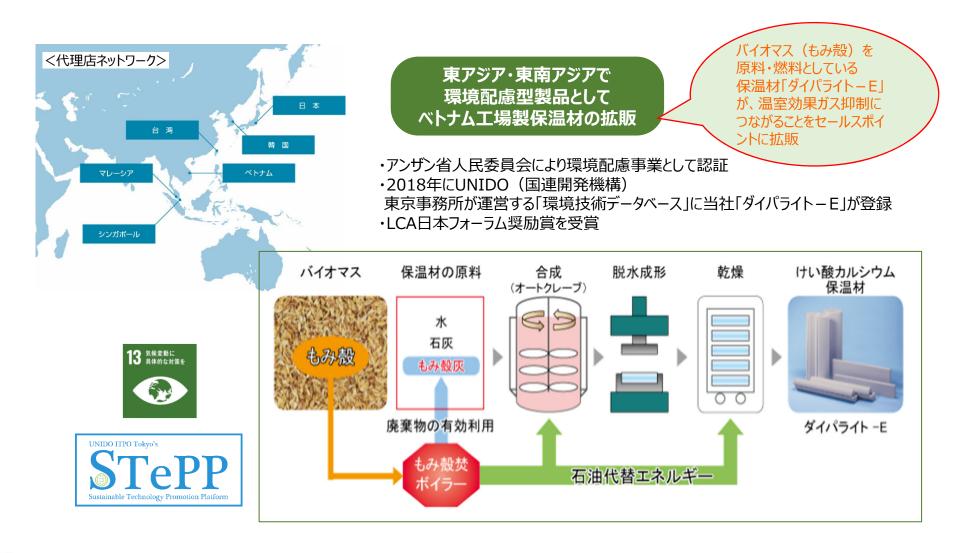
内部が数百度の高温になる機器向けに耐熱性が求められる部材として提供





海外への展開 (海外関連)







中期経営計画の概要

2021年度を始期とする中期計画 (2021年度~2023年度)



<主要方策>

nvironment

▶ カーボンニュートラル実現への貢献

Social

- ▶ レジリエント社会実現への貢献
- ▶ ステークホルダーとの エンゲージメント深化

サステナビリティ経営の推進(進捗状況)

- 1) 顧客がカーボンニュートラル化を図るために必要な保温保冷関連の新商品・サービスの開発を進めています。
- 2) 当社におけるカーボンニュートラル化を図るために、 2022年10月から岐阜・北勢地区の事業場にCO2フ リー電気を導入し、CO2 を年間で約4800t-CO2 削減 できる見込みです。
- 3) 建築関連の耐火建材事業は、建築のレジリエントに 貢献するものでありますが、顧客ニーズに対応した新認定 の取得など、製品、サービスの開発改良を進めています。
- 4) ステークホルダーとのエンゲージメント深化に関しては、 特に人的資本の充実を図るため、従業員の人材育成方 針の制定、福利厚生制度の改善、結果としての健康経 営認定取得等を推進しています。

Governance

ガバナンスの高度化コンプライアンスの確保

5) ガバナンスでは、コーポレートガバナンス・コードへの適合性を高めるため、改善活動を実施しています。

今後の方針を対外的にお示しするため、2024年6月を目途にサステナビリティ基本方針、マテリアリティの開示等を含む、次期中期経営計画の策定に向けて検討中。 5月からは、課題ごとに取締役会メンバーによる検討を行う「役員集中討議」を開始。



中期経営計画 事業計画





(連結)	2021年度			2022年度			2023年度		
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	予想	達成率 (予想)
売上高	12,900	14,118	109.4%	12,950	12,320	95.1%	13,000	13,335	102.6%
営業利益	1,716	1,861	108.5%	1,852	1,145	61.8%	1,863	1,433	76.9%
営業利益率	13.3%	13.2%		14.3%	9.3%		14.3%	10.7%	
当期純利益	1,143	1,145	100.2%	1,266	723	57.2%	1,291	878	68.0%
当期純利益率	8.9%	8.1%		9.8%	5.9%		9.9%	6.6%	
自己資本	12,148	12,080	99.4%	13,084	12,469	95.3%	14,070	12,937	91.9%
ROE	9.8%	9.8%		10.0%	5.9%		9.5%	6.9%	



株主還元方針



●持続的成長と企業価値の向上を図ることによって、株主様に対して適切な利益還元を行うことを基本方針とする。具体的には、1株当たり配当金を35円以上の水準を確保しつつ、配当性向30%以上を目標として、安定した配当の継続に努める。

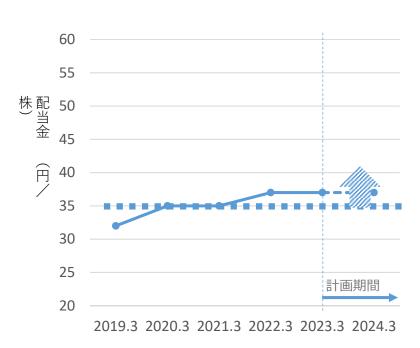
●2024年3月期予想配当は37円。

●配当性向の実績、予想は以下のとおり。

2023.3期: 44.2%

2024.3期: 36.4% (予想)

配当金の推移



1株当たり配当金を35円以上の水準を確保し、安定配当を継続



トピックス

トピックス 2022年4月~2023年6月



- 1)6月 執行役員制度導入
- 2)10月 カーボンフリー電力の導入
- 3)11月 ベトナム工場製造「ダイパライトE」JIS認証取得
- 4)12月 自社物流倉庫完成
- New 5) 12月 めんしんたすけ-S、3時間耐火構造認定取得 耐火構造認定の対象を拡充
- New 6)1月 学生F1レースへCFRP型材での支援を拡大
- New 7) 2月 新工法の軽鉄下地工法で新耐火構造認定を取得
- New 8) 4月 譲渡制限付株式報酬制度の導入
- 近日公表予定
 - 9)6月 はっ水処理製品のリサイクルを拡充







●生産・研究拠点のすべてで CO2フリー電気を導入

10月に岐阜工場、北勢工場で、11月に 岐阜R&Dセンターで利用している電気に 対し、CO2フリー電気を導入しました。 RE100に対応したCO2フリー電気を導入 することによって、当社の岐阜・北勢地 区の事業場から排出されるCO2を年間で 約4800t-CO2削減できる見込みです。





●バイオマス由来けい酸カルシウム保温材で、初のJIS認証取得

11月、完全子会社のジェイ アイ シー ベトナム有限会社にて製造している「ダイパライト-E」が、バイオマスから製造したけい酸カルシウム保温材として初めてJIS A9510 (無機多孔質保温材) 認証を取得いたしました。









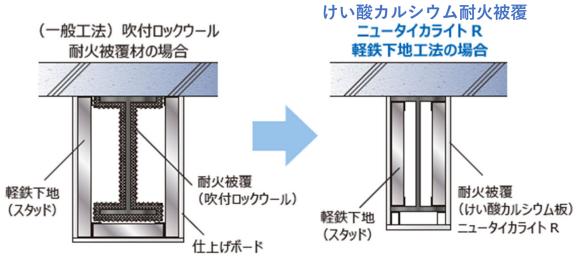


●耐火構造で2種類の新認定を取得

①軽鉄下地工法1時間耐火構造認定

一般的な吹付ロックウール耐火被覆材による工法に比べ、けい酸カルシウム耐火被覆板「ニュータイカライトR」軽鉄下地工法では、吹付ロックウール工事を省略でき、現場施工となる耐火被覆工事の工程を短縮することが可能となります。本工法は、工程短縮だけでなく、柱梁の仕上がりサイズを小さくすることができます。

本工法では、適用範囲の評価で適用可能な仕上げバリエーションを最大限広げた認定内容になっています。 JIS規格鋼材に加え、大臣認定鋼材など多くの材種の鋼材に適用可能です。





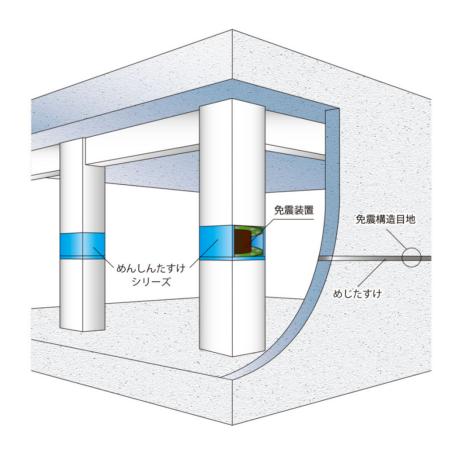


②めんしんたすけ-S、3時間耐火構造認定取得

柱・すべり支承免震装置耐火被覆システム『めんしんたすけ-S』の3時間耐火構造認定を2022年12月7日付で取得しました。

これまでの認定は特定の支承メーカー の免震装置に限定されており、一部を 除き3時間耐火が必要となる建物でご使 用いただけませんでした。

この度すべての支承メーカーに対応した新認定を取得し、積層ゴム免震装置等他の免震装置との組合せによる設計にも適用できるなど範囲が大きく広がり、設計の自由度が向上します。







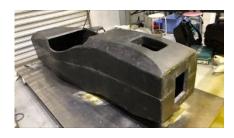


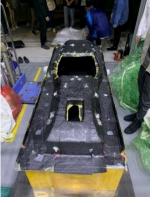
● CFRP型材で学生F1レースへの支援を拡大

当社では、社団法人自動車技術会が主催する学生フォーミュラ日本大会に参戦している大学のうち、協賛の申し入れがあったいくつかの大学にアルティーボードをCFRP成形用の型材として提供しています。豊橋科学技術大学、京都大学に加え、本年度は名古屋大学にも提供しました。名古屋大学FEMからは、アルティーボードはケミカルウッド等のCFRP製品の型材によく使用される材料に比べて、膨張率がCFRPに近いため、加熱時の剥離が起こりにくく成型面がきれいに仕上がるとの評価を得ています。

学生フォーミュラ日本大会は、学生が自ら構想・設計・製作した 車両により、ものづくりの総合力を競い、産学官民で支援して、 自動車技術ならびに産業の発展・振興に資する人材を育成す ることを目的とする取組みです。











●岐阜地区の製品倉庫を集約し、JIC物流センター完成

- ▶ 工場周辺に点在する倉庫を集約することによって、入出庫作業の合理化・短縮化を図り、物流業務に係るJIC従業員及び運送会社の運転手・荷役業務の関係者等に対する安全や作業環境の改善を図ろうとするものです。
- ▶ また、入出庫に伴う製品搬送も移動距離を短縮できるなど、環境面でも改善が期待できます。

2023年3月期投資額 307百万円 着工:6月30日 竣工:12月2日



外観



内観



トピックス 2022年4月~2023年6月









●執行役員制度の導入し、取締役を減員

2022年6月、ガバナンス強化の一つとして執行役員制度を導入いたしました。 業務執行と監督を分離し、経営の意思決定機構の改革、意思決定の効率化を図り、 取締役会の活性化、監督機構の強化を図ることを目的とします。

- 前) 取締役13名(業務執行9名 独立社外4名)
- 後) 取締役10名(業務執行5名 独立社外3名 非執行2名)/執行役員 4名

譲渡制限付株式報酬制度を導入

2023年4月、将来選任される取締役も含め、当社の取締役(社外取締役を除く)に対し、株主の皆様との一層の価値共有を進めるとともに、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与することを目的として、譲渡制限付株式報酬制度を導入しました。



(参考) 決算実績等

2023年3月期連結決算実績サマリー



(単位:百万円)

				2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
売	上	-	高	11,766	14,195	14,301	14,118	12,320
営	業	利	益	1,564	2,074	2,270	1,861	1,145
経	常	利	益	1,510	2,024	2,220	1,891	1,142
親会当	^{社 株 主} 期 糸	に帰属 も 利		980	1,464	1,023	1,145	723
1 株	まあた!	り純オ	利益	128.29円	189.52円	117.76円	131.84円	83.68円
1	株 配	当	金	32.00円	35.00円	35.00円	37.00円	37.00⊨



問合せ先

日本インシュレーション株式会社

管理本部経営企画部

TEL: 06-6210-1250

Email: jic-ir@jic-bestork.co.jp

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-18-7

【免責事項】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がある点にご留意ください。